

ポートフォリオ利用実態調査 7割の高校生が利用せず

3割の利用者の半数弱は無目的

旺文社 教育情報センター 2019年9月2日

いよいよ新入試が翌年度に迫り、各大学から 2021 年度入試の予告が続々とでてきている。英語外部試験の活用や記述式の導入と同様に注目されているのが、主体性の評価における各大学の対応だ。

その主体性の評価のツールとして、新たに活用が期待されているのが、生徒自身が能動的に学習・活動を記録する「ポートフォリオ」だ。主体性の評価をすべての大学入試に求める国の方針が示された当初は、ポートフォリオの活用が新入試から大きく拡大することが予想された。しかし、各大学の予告を見る限り、活用は極めて消極的な状況となっている。

ポートフォリオには、大学入試への活用以前に、「学習や活動の振り返りをすることで、主体的な学びを促す」という本質的な意義がある。ある高校教員は「ポートフォリオの主な導入の目的は学習の振り返り。大学入試には副次的に使えたらいい。」と言う。そういった意味では、たとえ大学入試に活用できなかったとしてもポートフォリオを活用する価値はある。ただし、その価値は利用者である高校生が本質的な意義を理解して利用することが条件と言えそうだ。

そこで今回は、大学入試改革で注目されているこのポートフォリオについて、高校生の利用実態を調査した。どれだけ認知され利用されているのか、またどういった目的で利用しているのか等、高校生に Web 上でアンケートを行い、ポートフォリオの概況をまとめた。

そもそもなぜ今「主体性の評価」が大学入試で求められるのか
そしてなぜ「ポートフォリオ」がツールとして利用推進されているのか

●主体性はこれからの時代に求められる能力

少子高齢化社会が進み、生産労働人口が漸減している日本。減少する労働力を補完するように IoT、BigData、AI、そしてロボティクスなどの新しい技術に投資が集まり、第4次産業革命の時代を迎えている。こうした技術の進展は、これまでの生活を豊かにする一方で、AI などによって代替可能性の高い仕事は今後消滅するとも言われている。

文科省は、こうした社会変化が激しく未来予測が困難な時代において、一人ひとりが主体的に課題を見つけ、学び、考え、判断・行動することで、よりよい社会の創り手となることが重要としている。そうした社会構造の変化を背景に、新しい学習指導要領が2020年より小学校から高校まで順次実施される。その改訂の肝となるのが学力の3要素だ。

学力の 3要素

- 1：知識・技能
- 2：思考力・判断力・表現力
- 3：主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度（記事内で主体性と表記）

●大学入試にも求められる主体性の評価

学習指導要領の改訂に伴い、大学入試も一体的に改革が行われている。文科省は、大学のすべての入試において学力の3要素を多面的・総合的に評価することを目指すとしている。そのなかでも、とりわけ評価方法が難しいとされているのが主体性の評価だ。

これまでも推薦・AO入試や一部の一般入試では、面接や調査書による主体性の評価が行われてきた。しかし、数千数万の受験生が集まる大規模大学の一般入試の場合、面接を課すのは無理がある。調査書にしても、高校教員の記述によって支えられているところが大きく、調査書の入試利用拡大は教員の働き方改革に逆行する。また、生徒の高校生活における学習・活動すべてを高校教員が把握し記述することも難しいとされている。

そこで、生徒自身が学習・活動記録をつける「ポートフォリオ」が主体性の評価のツールとして、活用が期待されることになった。その代表的な存在となるのが、国からの委託事業の中で開発された「JAPAN e-Portfolio」（以下 JeP）だ。

●大学入試に活用が期待される e ポートフォリオ

ポートフォリオの種類は多様だ。前述の JeP から、民間が独自開発した Web の e ポートフォリオ、手帳型のポートフォリオ、さらには高校教諭が手作りで作成したポートフォリオまで幅広い。

「学習や活動の振り返り」を目的とするのであれば、どれを利用してもよさそうだが、「大学入試に活用すること」を前提に考えるのであれば、Web 出願の際にデータ連携が可能な Web の e ポートフォリオを利用するのがよさそうだ。

今回は、高校生が実際にどんなタイプのポートフォリオを利用しているのかについても調査を行っている（P7 に結果詳細を掲載）。結果としては、高校指定の Web の e ポートフォリオが圧倒的となった。また、生徒自身でポートフォリオを選ぶ割合は 1 割程度と少数で、ポートフォリオ利用の大半が高校指定によるものということも分かった。

●大学入試における“主体性の評価”へのポートフォリオ活用は消極的

学力の 3 要素を育成し、すべての大学入試に主体性の評価を課すという国の方針が示されたことで、一部の高校ではポートフォリオの導入が進んだように思われる。一方で、ポートフォリオ導入高校の教員に生徒の利用状況を聞くと「ポートフォリオを積極的に利用している生徒は少ない」という声も多い。

そこで今回の調査では、高校生のポートフォリオ利用実態についてアンケートを行った（P5 に結果詳細を掲載）。まず、「ポートフォリオに記録をつけていますか」という質問に対し、“ポートフォリオは知っているが、記録をつけていない”と回答した割合が 35%と最も多く、次いで“ポートフォリオを知らない”と回答した割合が 34%となった。その 2つを合わせると、ポートフォリオ非利用率は全体の約 7 割となる。一方、“記録をつけている”と回答した割合は 30%に留まり、ポートフォリオの認知・利用が進んでいない実態が見えてきた。

さらに、“記録をつけている”と回答した 30%の回答者に対し、続けて「ポートフォリオを利用する目的」についても聞いた（P6 に結果詳細を掲載）。56%が“大学入試で利用するため”、37%が“自分の学習や活動の振り返りのため”と回答した。一方で、45%は“目的は特になく、学校で記録をつけるのが必須のため”と回答した。

P7 の調査結果にもあるとおり、ポートフォリオ利用者のほとんどが高校指定のものを利用している。そのため、能動的に利用している生徒だけではなく、ポートフォリオの本質的価値を理解しないまま、また目的を持たないまま利用している生徒が多数いる状況が見えてきた。

ポートフォリオの入試利用は、こうした普及状況に加え、各受験生の記載のバラつきや客観性の担保などの問題もある。ゆえに、新入試でのポートフォリオの活用は時期尚早と判断する大学が多いように思われる。特に国立大はその傾向が強い。私立大でも、新入試の予告を見る限り、ポートフォリオを合否判定に用いる大学は限られている。

●主体性の評価に利用されるのは調査書。その一方で課題も。

ポートフォリオの入試活用がなかなか進まないなか、調査書が学力の 3 要素を多面的・総合的に評価するため改訂される。生徒の学習や活動を詳細に記述できるよう、枚数制限が撤廃され、「指導上参考となる諸事項」の欄がより具体的な記述がなされるように改善される。この改訂により、調査書は主体性の評価としての機能が充実する。

大学としては、現時点ではポートフォリオより、機能の充実が図られる調査書の方が主体性の評価としては活用しやすいのだろう。新入試の予告を見る限り、主体性の評価にはポートフォリオではなく調査書を活用する大学が圧倒的に多い。

一方で、調査書の記述量が増えるということは高校教員の負担も増加する。また、大学側も数千数万の受験生の調査書を処理することが求められる。調査書の入試利用にも、現状ではまだまだ課題が多く残されていると言える。

●調査書の電子化で将来的にはeポートフォリオが普及する可能性も

今後ポートフォリオ普及の鍵を握りそうなのが「調査書の電子化」だ。2022年度からの全面的な導入を目標に文科省が計画を進めている。調査書が電子化されれば、高校教員の負担軽減に繋がるだけではなく、大学入試での調査書の処理スピードがあがることも期待される。さらに、調査書とeポートフォリオがデジタル連携できるようになれば、現在なかなか入試利用が進まないポートフォリオも広がる可能性はある。

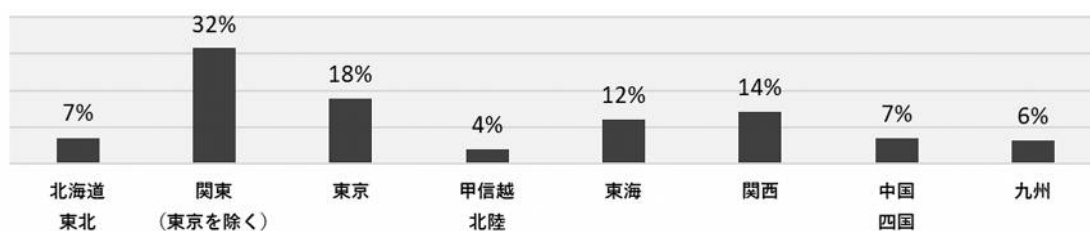
調査概要(Web アンケート概要)

- 調査題目 : ポートフォリオやってる？
- 掲載媒体 : Web サイト「大学受験パスナビ」のアンケート (パスナビ投票) にて実施
- 調査期間 : 2019年7月16日～8月26日
- サンプル : 716

■男女比



■地域属性割合



■学年属性割合



ポートフォリオの非利用率は7割
さらに、3人に1人はポートフォリオを知らず

▼質問①

ポートフォリオに記録をつけていますか。

▼回答選択肢

- ポートフォリオを知らない
- ポートフォリオを知っているが、記録をつけてない
- ポートフォリオに記録をつけている

▼回答結果（回答数：698）



▼結果の補足

ポートフォリオを利用しているのは3割に留まった。一方、「ポートフォリオを知らない」と「ポートフォリオは知っているが、記録をつけていない」が合わせて約7割となった。また、3人に1人はそもそもポートフォリオの存在すら知らないという結果となり、記録をつける以前に、まずは認知が不足している実態が見えてきた。

ただ結果については、前提条件などを考慮する必要もある。今回のアンケートにおける学年属性は、回答者の53%が高3生と浪人生で構成されており、新入試に該当する高2生以下が47%とやや少ない。また、実際には記録をつけていたとしても、名称を知らないがゆえに「ポートフォリオを知らない」と回答した生徒もいただろう。したがって、この回答結果については、そうした前提条件を理解したうえで見るべきだろう。

次の質問では、「ポートフォリオに記録をつけている」に回答した30%のユーザーに、ポートフォリオを利用する目的を聞いた。

ポートフォリオに記録をつけている 30%のうち
約 45%が目的なくポートフォリオを利用

▼質問②（質問①で「ポートフォリオに記録をつけている」と回答した方が対象）

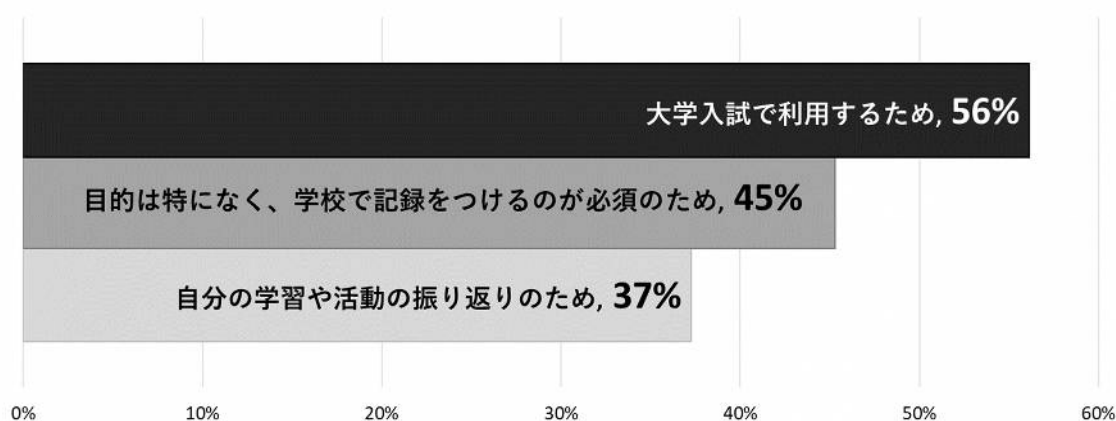
ポートフォリオに記録をつける目的は何ですか。

▼回答選択肢

あてはまるものにチェックしてください。（複数回答可）

- 自分の学習や活動の振り返りのため
- 大学入試で利用するため
- 目的は特になく、学校で記録をつけるのが必須のため

▼回答結果（回答者数：212 / 回答数合計：296）



▼結果の補足

まず前提として、質問①で「ポートフォリオに記録をつけている」と回答した 30%に対する質問であることをご理解いただいたうえで回答結果を見てほしい。

もっとも回答数が多かったのは 56%の「大学入試で利用するため」。大学入試に利用できることは、ポートフォリオ利用のもっとも大きな動機となっているようだ。

その一方で、「目的は特になく、学校で記録をつけるのが必須のため」と回答したのが 45%と、ポートフォリオの本質的価値を理解しないまま、目的も無く、利用している層が半数弱いることも見えてきた。ポートフォリオを導入した高校がその意義や価値を生徒に伝えきれていない状況がうかがえる。

また、ポートフォリオの本質的かつ最大の価値と言ってもいい「自分の学習や活動の振り返りのため」と回答した割合は 37%に留まり、「目的は特になく、学校で記録をつけるのが必須のため」よりも下回る結果となった。

高校主導での Web のポートフォリオ利用が圧倒的多数
生徒自身が能動的にサービスを選択する割合は 1 割程度

▼質問③

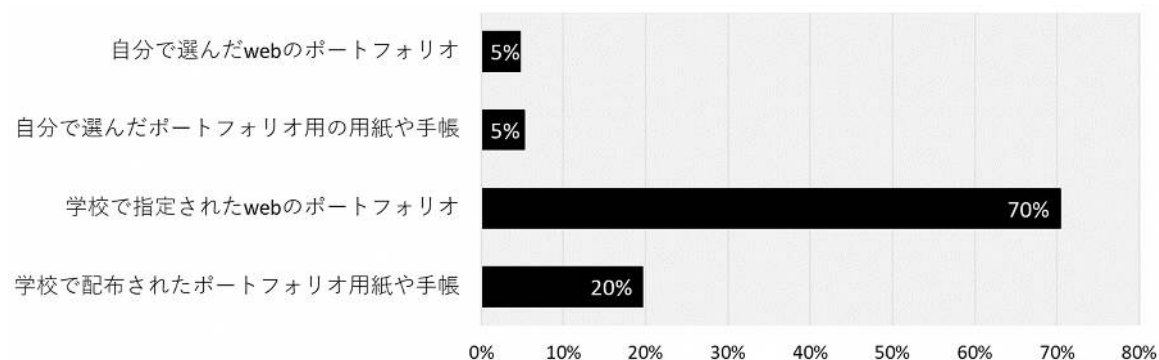
利用しているポートフォリオはどんなタイプですか。

▼回答選択肢

あてはまるものが複数ある場合はメインで利用しているもの 1 つをチェックしてください。

- 学校で配布されたポートフォリオ用紙や手帳
- 学校で指定された web のポートフォリオ
- 自分で選んだポートフォリオ用紙や手帳
- 自分で選んだ web のポートフォリオ

▼回答結果（回答数：209）



▼結果の補足

さいごに、ポートフォリオの利用きっかけが高校主導なのか、それとも生徒主導なのか、さらに、ICT環境がまだ十分とはいえない高校で利用されているポートフォリオのタイプが Web なのかアナログなのかを調査した。

結果は「学校で指定された Web のポートフォリオ」と「学校で配布されたポートフォリオ用紙や手帳」が合わせて 9 割となり、利用のきっかけは高校主導であることが分かった。生徒自身が能動的に選択した割合は 1 割程度になった。

ポートフォリオのタイプとしては Web（e ポートフォリオ）が中心のようだ。調査書が電子化され、学校の ICT 化が推進されていくことを考えると、今後もこの流れは変わらなそう

(2019.09 林)